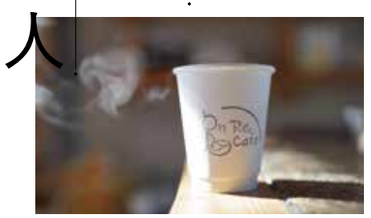
唯一無二の団地再生プロジェクト

この街 あの人 この人



On Re. Project（オン リー プロジェクト）

小野（おの）　千景（ちかげ）さん

建設関係の会社に勤めていたとき、地元である市原市の団地を調査研究していた小野千景さん。調査を行う中で若宮団地の現状を知り、空き家を再生する活動がしたいと考えるようになります。そして、２０２２年に勤めていた会社を退職し、空き家をリノベーションする「On Re. Project」を立ち上げました。

若宮に感じた可能性

大学で建築などについて学んだ小野さんは、卒業後、建設・不動産関係の会社に就職しました。

勤務先での異動を経て、研究所に配属され、築40年から50年が経過したマンションの現状を調査することになります。「仕事をしながら自分でも調査研究をしてみようと考えたときに、地元である市原市の団地の状況を調べようと思ったんです」

普段から市内のイベントに参加し、地域の人と交流することが好きだった小野さんは、さまざまな人に声を掛けることにしました。初めは市内の団地について調査することが目的でしたが、市内の空き家問題に取り組む人々と出会ううちに、団地や空き家の再生にも興味を持つようになります。

「特に若宮団地は地元が近かったことや、市内では珍しいテラスハウスのある団地ということで興味がありました。高度経済成長期に入居した人が多く、入居者の高齢化が進んでいますが、八幡宿駅へは徒歩でアクセスできるし、インフラも整っている地域でもあります。さまざまな可能性を感じる地域だからこそ、このままの状況でいるのはもったいない」との思いから、若宮団地内で空き家を再生させるプロジェクトを始める決断をしました。



店内にて笑顔で取材に応じる小野さん

「On Re.Cafe」

所在地　若宮4-17-13
営業時間　午前11時～午後4時
定休日　木曜日・日曜日・祝日
駐車場　3台

活動拠点は地域の居場所

プロジェクトの活動拠点をつくるために団地内の空き家を探し始めた小野さん。「空き家の所有者を探すのも、交渉をするのも全て一人で行いました。地道な活動で苦労しました」と振り返ります。団地に住む人に聞き取りを行い、物件が空き家だと分かると所有者を調べて手紙を送りました。しかし、まだ住む可能性があるなどの所有者の事情により、譲渡まで進むことは珍しいといいます。

一軒目の空き家を購入すると、17年間勤めていた会社を退職し、リノベーションに取り組みます。「せっかくなら団地に住む人が喜んでくれるような集まれる場所をつくりたい」と考えた小野さんは、活動拠点をカフェにすることにしました。

改修を始めるためにSNSでボランティアを募集すると、活動に興味を持ってくれた人や団地に住む人が作業に参加してくれたそうです。「論文の調査でたまたま若宮団地を訪れていた大学生たちにも声を掛けたところ、ボランティアとして活動に参加してくれました。これをきっかけに現在でも交流が続いています」とうれしそうに語る小野さん。多くの人の支援を受けながら、2023年4月、プロジェクトの活動拠点となる「On Re. cafe」をオープンしました。

地域と共に夢をかなえる

カフェが完成すると若宮団地に住む人だけでなく、市外から来てくれる人もいたそうです。「オープン後は地域の居場所としての役割を果たすことができていると感じています。ご理解・ご協力いただいている近所やまちづくり協議会の方には感謝しています」

その後は住む人が自分でリノベーションするシェアハウス「On Re. House」や、空き家を使って人が集まる場所を作りたいという人へ活動場所を提供するプロジェクトを続けています。「空き家を使い、夢の実現を手助けする。このような活動は珍しいと思っています。小野がリノベーションを手掛ける、唯一無二・オンリーなプロジェクトとして、これからも活動を続けていきます。若宮団地で夢をかなえたい人はぜひご相談ください」と笑顔で話してくれました。

Instagram

On Re.project
@on_re.pj

On Re.cafe
@on.re.cafe



入居者と一緒にリノベーションしたシェアハウス「On Re.House」の前で笑顔の小野さん

◀「On Re.cafe」となる空き家のリノベーションを行う様子

▼リノベーション後、活動の拠点となっているカフェ

広報いちはら　2025.2